

「日中鉄鋼業 環境保全・省エネ先進技術交流会」を開催



7月4日 三村日本鉄鋼連盟会長と謝企華 中国鉄鋼工業協会会長による覚書調印



日本鉄鋼連盟(会長:三村明夫・新日鉄社長)と中国鉄鋼工業協会(会長:謝企華・上海宝鋼集团董事长)の共催で、7月4日・5日の2日間、中国北京市で「日中鉄鋼業 環境保全・省エネ先進技術交流会」が開催された。

両国鉄鋼業の持続的な発展と地球環境問題への貢献を目的とした本交流会には、日中鉄鋼業の大多数の経営トップおよび政府・研究機関関係者約200名が出席し、熱のこもったプレゼンテーションや活発な質疑が行われ、成功裏に閉幕した。

初日は、三村、謝両会長の挨拶で交流会が始まり、鉄鋼業における環境保全と省エネルギーについての取り組み状況や国の政策等について、日中双方の業界および政府関係者によるプレゼンテーションが行われた。また、今後も日中鉄鋼業

界で環境保全、省エネルギーについて継続的に交流を図っていくことが確認され、両会長名による覚書が取り交わされた。

2日目は、環境保全グループ、省エネルギーグループに分かれ、環境保全については、焼結・コークス・高炉などの工程毎の対策が、省エネについては、TRT(高炉炉頂圧発電設備)、CDQ(コークス乾式消火設備)や直接還元製鉄法などの個別対策・技術が、日中双方から紹介された。

新日鉄からは、環境部長山田健司が環境保全グループの共同司会を担当するとともに、技術総括部製鉄技術グループ部長の植松宏志が「コークス工程の環境対策」について、プラント・環境事業部製鉄プラント第一部製鉄・原料グループマネジャー藤川淳が「省エネルギー対策(コークス乾式消火設備・石炭調湿設備)の紹介」について講演を行った。

三村明夫会長の挨拶(要旨)

日中両国の本格的な交流開始から30年を経た本日、世界最大の生産実績を有する中国鉄鋼業と、世界最高水準の環境・省エネ技術を有する日本鉄鋼業が、環境保全と省エネルギーに対する双方の思いを一致させ、共に手を携え、新たなスタートを切ることとなりました。

今や世界第一位と第二位の生産実績を有する中国と日本は、世界の鉄鋼業の安定的発展と、持続可能な経済社会の構築に対して責任があります。

日本の鉄鋼業は過去に公害問題、オイルショックを克服するために、徹底的に環境対策・省エネルギー対策に取り組んできた結果、世界最高水準のエネルギー効率と環境保全・資源循環利用技術を持っています。

日中鉄鋼業界は、それぞれの努力と相互の協力を通じて「環境と経済の両立」を実現し、ひいては世界的視野において、持続可能な経済社会の発展に大きく寄与できるものと確信しています。



謝企華会長の挨拶(要旨)

今回の交流会は日中両国間の重要な交流活動の一つで、両国の環境保全・省エネの先進技術と関連政策の交流を図ることは、両国鉄鋼業の持続可能な発展を促進し、中日両国の人民と全世界人類に幸福をもたらすものです。

中国鉄鋼業は発展の過程において環境保全・省エネの面で大いに活動を進めてきましたが、世界の先進レベルと比較すれば、まだ大きな開きがあります。

目下、中国鉄鋼業は科学的発展観を全面的に貫徹実行し、構造調整を推進し、持続的な発展の実現を目指して努力しています。中国鉄鋼業の健全な発展の過程で、世界各国の先進的経験、特に日本の鉄鋼業の先進的技術を学ぶことは重要な意味を持っています。

今回の交流会は、中日両国の鉄鋼業界に相互交流と相互学習のプラットフォームを提供し、交流を通じて理解を深め、両国の協力と鉄鋼業の持続可能な発展を促進することに違いありません。

